

中国のセクシャルマイノリティ支援 — II

劉 強 (リュウ キョウ)

立命館大学大学院 人間科学研究科

前回まで

今回は、中国におけるセクシャルマイノリティを支援する100以上の団体が存在していると述べた。今回は、私の博士論文における調査に協力を得ている団体の概要や活動内容などについて触れていきたい。

団体の概要

今回紹介したいのは、出色伙伴（以下、英語名の“Trueself”と記す）という支援団体である。“Trueself”は2008年に発足した。発足当時は男性同性愛者一人と、男性同性愛者の息子を持つ母親一人により立ち上げられた。本部を中国の広州市に置き、設立当初はごく小さな組織であった。その後、十数年間の発展により、現在は全国規模の機関になり、全国70以上の都市にボランティアチームを有し、2018年には、ボランティア登録者数は5000人を超えた。また、ボランティアは主にセクシャルマイノリティ、セクシャルマイノリティの子どもを持つ親で構成される。ボランティアの中には、普段自身の仕事に従事しながら、自由に使える時間を使い活動を行うボランティア、

定年退職後、ボランティア活動を一つのキャリアとして身を投じる人もいる。

“Trueself”の活動経費はほとんど有志の寄付により賄われている。国から支援を得られないなかで、当事者たちは自身の力で機関の影響力を高め、現在は国内で最大のセクシャルマイノリティの支援機関になっている。セクシャルマイノリティの権利の保護とともに、カミングアウトをめぐる支援も求められている中国社会において、この機関は重要な役割を果たしている。

活動内容

“Trueself”の一つメインの活動は、セクシャルマイノリティへカミングアウト支援を提供することである。カミングアウトとは、自分の性的指向や性自認を他人に打ち明けることである。このような行為が、多様な性の存在が認識されていない社会においては、決して容易なことではない。その状況を打破するため、カミングアウトをめぐり、助言やアドバイスなどを提供する団体が生まれ、今回で紹介する“Trueself”も、そのうちの一つである。ここで提供するカミングアウト支援は、カミングアウト

という行為の主体であるセクシャルマイノリティ本人へサポートを提供するだけではなく、彼/彼女らのカミングアウトする相手、とりわけ、親たちへのサポートも視野に入れている。“Trueself”はこのような支援活動を持続的に提供し、現在は多様な支援方式を持っている。

まず、支援にあたり、充実した研修制度が設けられている。研修は、初級の「レインボークラス」と上級の「レインボー協力営」に分かれている。参加者数や研修内容もそれぞれ異なっている。

支援はハイブリット式で行われ、対面での支援のほか、積極的にオンラインツールを利用する支援も行われている。特に、新型コロナウイルス感染症が猛威を奮っている中、オンラインによる支援は大きく役に立った。オンライン支援の場合、ボランティアはライブ配信やホットラインを通じて支援を行い、支援を希望する人を個別連絡先の追加とチャットグループに招待している。その後、チャットアプリを通じて遠隔支援を行い、必要に応じてオンライン支援からオフライン支援に切り替える。オフライン支援の場合、数多く開催されるイベントを通じ、コミュニティを形成し、凝集性を高めている。相談者の要望により、その家族が実際の生活の場に仲介者として入り、家族間で起きるカミングアウトをめぐる諸問題を自身の経験を活かし、支援を届けている。オフラインイベントの中では、特に注

目されているのは二つある。それは全国規模の懇談会と地域小規模のシェアリング会であり、子どものセクシャルリティを受け入れた親、あるいは、まだ受け入れてないが、参加者と自分の経験を共有したいと思う親たちが自分の話をする場である。それ以外にも、周りに同じ経験を持つ人のいない家族、あるいは公の場に姿を現すことに否定的な家族に対し、出張型で支援を提供している。

また、広報活動に力を入れるボランティアも存在する。ボランティアが積極的にテレビや新聞の集材に応じて、公の場で自分の経験を語り、セクシャルマイノリティへの関心を高めるための取り組みを行っている。

そのほか、“Trueself”は講演会を開催し、多様な性の存在、法律や政策などの知識付与活動を行っている。研究者への研究支援も行い、学生のフィールドワークやインターンシップも協力している。

今後の予定

次回以降の連載では、上記で紹介した支援活動について、ボランティアとのやり取りを含めて詳しく紹介していきたい。